

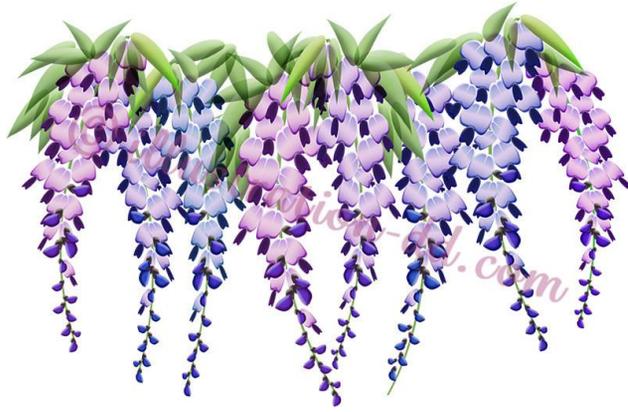
宿縁

五月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番二十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

仏智の不思議を

信ずる



数年間にわたり本堂の天井裏で時折騒ぎ回っていたハクビシンを駆除業者が仕掛けた檻で捕獲しました。

ほっとした半面、檻の中で威嚇し鋭い爪で暴れる野獣の姿を見、殺処分にするという業者の言葉を聞いて、少し可哀そうな気もいたしました。別に人を襲うのでもなく、たいがい朝のお勤め時間帯前後(6時から7時頃)に騒ぐので、一緒に読経に参加しているのかと思わないでもありませんでした。その証拠には夏、読経にこたえるかのように遠くで聞こ

えていた蟬が近くまで来てはげしく啼いたり、鳥のさえずりが一段と高くなって心地よく聞こえることがあるからです。結局は自分勝手に思う人間中心から抜け出せない私という存在を知りました。

折しもNHKEテレ「1000分de名著『金子みすゞ詩集』」をやっていました。

2011年三月十一日に東日本大震災が起き、大津波と原子力発電所が爆発、日本中が恐怖のどん底に突き落とされました。

テレビとラジオでは、一切のコマーシャルの代わりに、ACジャパンのCMとして繰り返し流されたのが金子みすゞの詩です。

「遊ぼう」っていうと

「馬鹿」っていうと

「遊ぼう」っていうと

「馬鹿」っていうと

「もう遊ばない」っていうと

「遊ばない」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていうと

のか。作家として懐疑的になっていった私に、言葉には魂があり、心から心へと響き合い、心と心をついに結びつけるという真理を、みすゞは圧倒的な言葉の力をもって教えてくれたのです。」

と語っています。

1982年に金子みすゞの全作品を発掘し、約十年後に「金子みすゞ全集」を編集し世に出した児童文学作家詩人の矢崎節夫さんの功績はよく知られています。

童謡詩を書いた金子みすゞには、優しくて

かわい作風を連想しますが、実際は幅広いテーマで意欲的に創作をしています。一人です生まれ一人で死んでいく人間の根源的な孤独、子ども心のあどけなさとしさ、愛らし

い遊び、小さな命の儂さといとおしさ、ふるさとの海辺の情景、ファンタジックな夢想宇宙の成り立ち、さらに女性の生き方にも筆を広げています。

仏教の大切な視点である慈悲心を読む次の詩は、いのちへの深いまなざしを感じます。

鯨法会

鯨法会は春のくれ、海に飛魚採れるころ。

浜のお寺で鳴る鐘が、

ゆれて水面をわたるとき、

村の漁夫が羽織着て、

浜のお寺へいそぐとき、

沖で鯨の子がひとり、

その鳴る鐘をききながら、

死んだ父さま、母さまを、

いとし、こいしと泣いています。

海のおもてを、鐘の音は、

海のどこまで、ひびくやら。

仙崎の海を血で赤く染めて死んでいった鯨の魂を弔う鐘の音色が、寺から海へ響きわたるとき、夕暮れの浜で、みすゞはひとり目を潤ませていたのでしょうか。

相対の世界から抜け出して絶対の世界に目を向けることに疎い人間のものの見方は遠い感情です。対立を超えた絶対の世界に出たとき、自他の壁がなくなり響き合ういのちが生まれます。これが大悲のころであり一如の世界といえます。さとりととは、すべては本来一味平等の世界であることの意味です。

親鸞聖人はその主著「教行信証」(行巻)で南無阿弥陀仏の「名号」は、すべてのものを平等に一如の世界に目覚めさせる「一乗海」であることと解釈されています。即ち「一乗海」というのは、大乘であり、大乘とはこの上ない仏のさとりを得るのである。一乗の法を極めつくすとは、空間と時間を超えたさとりを得ることである。一乗の教えは最上の教えである。それは如来の本願のはたらきにより、あらゆるものに仏のさとりを開かせるただ一つの教えにほかならない。」と。

金子みすゞは、わずか二十六歳で夭折(自死)します。しかし五百首にのぼる一つ一つの詩には視点の逆転、想像の飛躍そして言葉で響き合う未来へのまなざしがあります。

なぜ親鸞聖人が二十年間比叡山で学んだ天台教学を捨て、師法然聖人の説く浄土教に帰したのか?それは論理を究めてさとりに達する人間智の限界に気づき、すでに如来の智慧による大悲が人間の煩惱のすべてを包み、そのままの救いがすでに届けられていたことへの驚嘆であったのだと思います。

【寺灯雑記】

○子どもたちと花まつりを祝う

4/2

子ども花まつりを開催し、参加してくれた子どもたちと一緒に釈迦さまのお誕生をお祝いしました。

初めてお寺に参ったという子どもも多く、本堂内での献灯献花にはじまり、慣れない読経や初めて聞く仏さまのお話に、興味津々の様子でした。

その後は聞法会館に移動し、児童ダンスサークル「マーブルチョコ」の皆さんにダンスを披露していただきました。幼稚園児から中学生の総勢三十四人が流行りの楽曲に合わせてかわいらしいダンスや激しいダンスにすっかり魅了され、見ている方も自然と体が動いてしまいました。

また、リース作りにも挑戦してもらい、それぞれお気に入りの飾りつけをしたオリジナルリースを作り上げました。

参加してくれた子どもたちにはお菓子やお花のおみやげを渡し、少しでもお寺を身近に感じてもらえたらと思います。

○星野家一族でタケノコ掘り

4/9

星野家の四世代の二一族二十人ほどが本堂に集合、星野修一郎さんからみんなにプレゼントされた「勤行聖典」で一緒に「らいはいのうた」を唱和した後、お寺の裏山でタケノコ掘りを楽しみました。

一家庭十本のタケノコ掘りを目標に大人も子どもたちもわいわいがやがや、自然林中で一緒の時間を共有しました。

採り立ての柔らかいタケノコを前坊守がゆでて、刺身にしていただき、とても意義ある集いとなりました。

○入門式を受けて門徒のお仲間入り

4/16

今年のお入門式が行われ、二組のご家族が参加され、新たに中原寺とのお縁を結んでくださいました。式中、住職より門徒式章と経本が授与され、受式者宣誓文の拝読により御仏前にて真宗門徒としての思いを新たにされました。

引き続き行われた常例法座では、戸田市正善寺御住職の熊原博文師にお話しいただき、悩み苦しみのなかにある私のいの中に寄り添う阿弥陀様のおこころについてお聞かせいただきました。

左記の方々が新しく御同朋のお仲間になりました。よろしくお願いいたします。

*杉山俊一 ご家族様

*神成仁 ご家族様

○市議選で当選御礼

去る四月二十三日に投票された市川市市議員選挙に立候補した当寺門徒の石原みさ子さんが四期目の当選を果たしました。皆様のご支援に感謝申し上げます。

【五月の法要・法座・行事】

○お仏具磨き・清掃奉仕

※五月六日(土) 十時

ご参加のかたは動きやすい服装でお越しください。

○婦人会法座(御文章四帖目十通)

※五月六日(土) 一時

○親鸞聖人御誕生八五〇年

立教開宗八〇〇年 団体参拝旅行

※五月八日(月) 十日(水)

○子育てサロン(パンダっ子)

※五月十五日(月) 十一時~十四時

◎宗祖降誕会・永代経法要

※五月二十一日(日) 一時

(時間の変更にお気を付けてください。)

法要 献灯献花「ちかいのうた」

「正信偈」く讃仏歌

講師 ケネス田中師

(武蔵野大学名誉教授)

講題

「生きるための仏教

―思い通りにいかないことにどう対応すればよいのか?―

ばよいのか?」

新緑まぶしい季節、親鸞聖人をはじめ亡き方々を偲びつつ、そのお導きに感謝する法要です。皆様お揃いでご参詣ください。

○千葉組仏教壮年会 総会・研修会

※五月二十六日(金) 一時三〇分

会場：千葉市民会館 第一・第二会議室

(JR千葉駅東口より徒歩7分)

法話：馬場弘道師(我孫子市 真栄寺)

講話：「共に歩む」

*終了後、懇親会を予定。

☆参加希望の方は五月十二日までに中原寺にご連絡ください。

○親鸞セミナー(浄土文類聚鈔を学ぶ)

※五月二十七日(土) 二時

【ブツダの教え 「お経」のことば

「頭と尾」

ある蛇の頭と尾とが、あるとき、お互いに前に出ようとして争った。尾が言うには、

「頭よ、おまえはいつも前にあるが、それは正しいことではない。たまにはわたしを前にするのがよい。」

頭が言うには、

「わたしがいつも前にあるのは決まった習わしである。おまえを前にすることはできない。」と。

互いに争ったが、やはり頭が前にあるので、尾は怒って木に巻きついて頭が前に進むことを許さず、頭がひるむすきに、木から離れて前へ進み、ついには火の穴に落ち、焼けただれて死んだ。

ものにはすべて順序があり、異なる働きがそなわっている。不平を並べてその順序を乱し、そのために、そのおのおのに与えられている働きを失うようになると、そのすべてが減んでしまうのである。

『百喻経』

【今月の掲示板のことば】

み仏の あたたかい

み手にいだから

今日のいのちを

ありがとう

☆おかげさまで「宿縁」600号となりました。ご愛読感謝いたします。